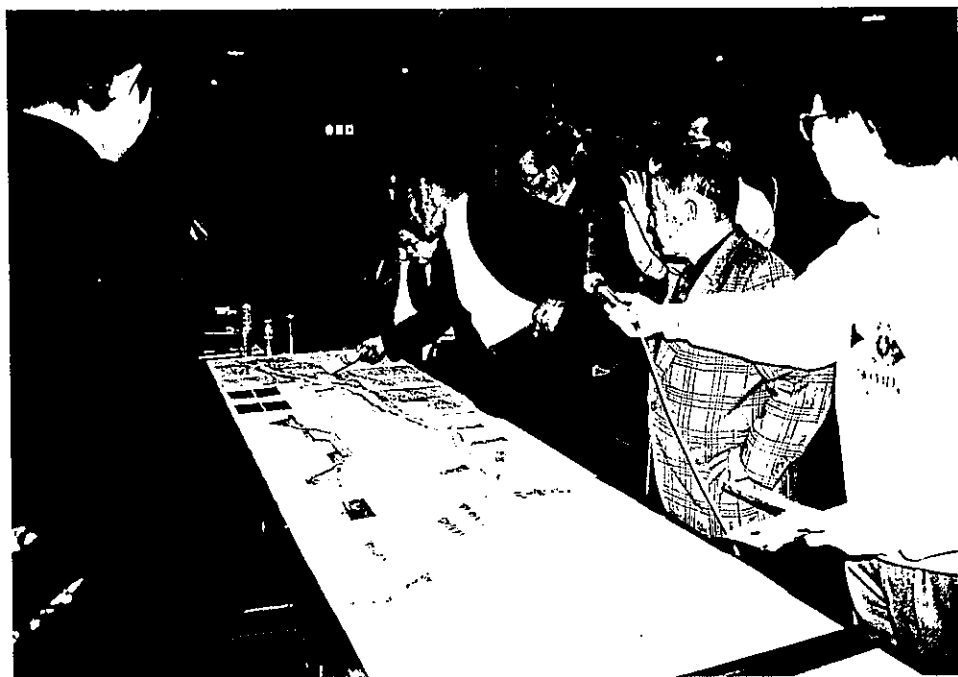


『平成の大改修』にともなう 荒川改修説明会が開かれました



去る3月6日、福島市市民会館において「平成の大改修」にともなう荒川改修説明会が開催されました。昨年の水害を教訓として、「災害に強いまちづくり」を進めるために、建設省では阿武隈川と荒川の大規模な改修計画を立てました。当日は、f a nの会員を対象として約20人の参加の下、「荒川づくり」の視点から計画の概要説明と質疑応答が進められました。その概要をご報告します。

「改修計画」は大きく分けて3つの部分から構成されています。その第一は物理的な面からの総合的治水対策です。無堤地区の解消、障害となっている部分の掘削、堤防の強化、内水氾濫に備えての排水ポンプの設置・強化などがこれにあたります。この工事が完成すれば、去年と同じ規模の豪雨があったとしても、浸水面積は1842haから703haへ、被害額は1353億円から565億円に減少することです。荒川沿川ではほぼ全川にわたり堤防の強化と蛇行を抑制するための工事が実施される予定です。これにつきましては資料を添付しましたので、ご覧下さい。また、これと合わせて霞堤の強化や水防林の保全整備の推進、水防資材を備蓄したり洪水時に基地となる「荒川河川防災ステーション」の新設なども行われる予定となっています。

第二はソフト面の強化です。水害が起こったとき、どのような経路を通ってどこに避難したらよいのか、それを過去の経験からまとめたものが「ハザードマップ」です。郡山市では8.5水害の経験からこれをまとめ、去年の水害では大きな効果を発揮しました。このようなハザードマップを作成し、全戸に配布することによって水害に備えていくことにしています。また、高度情報システムの導入も行われます。堤防の決壊はいつ、どこで起こるかわかりません。そこで沿川に光ファイバー網を張り巡らし、それがいつ起こっても、直ちに対応できるような体制を整えます。

しかし、川を守るためには地域住民の皆様の協力が不可欠です。現在、これを支えているのが水防団です。去年の水害でも、水防団の皆様の身を挺しての活躍には感謝の念が絶えません。このような水防団の活動を支援し、強化していくことも重要な課題として取り上げられています。

第三は、美しい川の創生です。いかに洪水に強くとも、コンクリートで埋め尽くされてはせっかくの川が台無しになってしまいます。そこで、荒川沿川ではコンクリートがむき出しにならないように玉石を埋め込み、景観の保全にも配慮がなされます。また、できるだけ自然を壊さないように、多自然型工法が取り入れられるとのことでした。

このようにして荒川は整備されていく予定ですが、荒川を育てていくのは我々の使命です。質疑応答の中でも、f a nももっと荒川の保全のために活動していかなければならないとの意見も出されました。荒川のために、何をすることが必要なのか、これからも考えていきたいと思えます。

